



令和4年度

# 学校評価報告書

帝塚山中学校・帝塚山高等学校



学校法人帝塚山学園

## 令和4年度学校評価について

帝塚山中学校・帝塚山高等学校は、令和4年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、本校生徒とその保護者、卒業生を対象とした各アンケート結果、保護者等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山中学校・帝塚山高等学校  
校長 小林 健

# 令和4年度 学校評価

## 1. 総括

<p>学 校 名</p>	<p>帝塚山中学校・帝塚山高等学校</p>
<p>建学の精神</p>	<p>社会に有為な人材を育成する</p>
<p>重点目標 (教育目標)</p>	<p>総合的な人間力の育成と進学実績の向上</p>
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>[成果]</p> <p>I C Tを活用した帝塚山教育の一層の充実を図るため、プロジェクターを全教室、演習室、理科専科教室に設置するほか、教員タブレット (Surface、Arrows) の導入、無線LAN環境の全館整備と計画的にI C T環境の整備を進めた結果、I C T機器を活用した授業は着実に増加した。I C T委員会で各教科別にアクティブラーニングの視点を踏まえた授業改革や、A Iドリルの選定、グーグルクラスルームの使い方の研究を行った。また令和3年度に、中学全学年、高校1年生の生徒にクロムブックを導入した。これを使って、生徒同士が共同して取り組む課題を与えやすくなり、発表の場が増加した。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け、各学年を分散したり時差を設けるなど感染症対策をとって体育祭に代わるスポーツデーを実施した。そして、新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者など自宅待機生徒を対象に、学習支援として、ZOOMを使ってのライブ授業配信やオンデマンド授業や課題を配信した。その際、生徒からわかりやすく学べたと好評であった。なお、様々なプログラムを実施している特色教育については、グローバルキャリア教育として、中学3年生には、グローバルキャリア講演会、高校1年生ではエンパワーメントプログラムを実施した。</p> <p>[課題]</p> <p>令和4年度中学全学年、高校1、2年生に、一人一台のデジタルデバイスを使っての学びは2年目となる。今後は、I C Tを活用した授業革新とともに教員のI C T活用指導力の向上を図り、合わせて教員の負担軽減のための公務の効率化をより一層促進させていきたい。また、先の見通せない時代だからこそ、自分で学び、考え、行動する教育がますます必要である。新型コロナウイルス感染症対策をしっかりととることで実施できる行事を組み立て、生徒の学習を止めない実践を行うことを第一に考える。コロナ禍をマイナスに捉えるのではなく、生徒自身にもできることを考えさせ、今できること、しなければならないことを自分から進んで実行する力をつけるチャンスと考えたい。</p>

## 2. 自己評価

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
1. 建学の理念に基づく教育目標・教育計画の共有化	① 全教職員に、本校の教育目標及び教育内容を伝える。 (年度始め合同職員会議資料)	A	A	① 年度始めの合同職員会議で学校経営方針を全教職員で共有するとともに、それに基づいた各分掌の計画を確認した。	① 今後も全教職員の意識統一を図るようにする。
	② スクールミッション及びスクールポリシーの策定に向けて検討する。(各ポリシー原案)	B		② 管理職会で、本校の現状と課題等について協議を行い、今後、目標をわかりやすく明確な表現にすることで、3つのポリシーの策定につなげることを決定した。	② さらに詳細な検討をし、策定を進める。
2. 教職員の資質及びスキルの向上を図る研修の実施	①-1 生徒指導研修会を実施する。(研修会実施内容及び実施回数)	A	A	①-1 第1回生徒指導研修会、第2回生徒指導研修会を実施。事後アンケートでは、満足度の高い結果が得られた。ワールドカフェは、教師間だけでなく生徒にも反映できるという前向きな意見が複数見られた。	①-1 今後も受身でなく主体的に関わる研修会を実施していく。
	①-2 進路指導研修会を実施する。(研修会実施内容及び実施回数)	A		①-2 外部講師を招いて、医学部入試セミナーを実施した。	①-2 今年度もさらに質の高い研修会を実施していく。
	①-3 教育相談研修会を実施する。(研修会実施内容及び実施回数)	B		①-3 対面講演を予定していたが、講師の体調不良により開催できず、代わりに起立性調節障害について、音声付き動画を視聴した。	①-3 コロナ禍での制限も解除されつつある中、計画通りの研修会を実施する。
	①-4 人権教育研修会を実施する。(研修会実施内容及び実施回数)	A		①-4 奈良県高等学校人権教育研究会顧問を招き、部落差別についての研修会を実施した。	①-4 これからも人権意識の高い研修会を実施していく。
	①-5 救急救命研修会を実施する。(研修会実施内容及び実施回数)	A		①-5 常勤の教諭だけでなく、非常勤講師を含む全教員に救命救急時の研修を行い、緊急時に備えた。新型コロナウイルス感染症についての研修も引き続き行った。全教員のAED使用講習会実施、グラウンドでの消火器を利用した訓練を実施した。	①-5 全教職員参加型の研修会の工夫を続ける。
	② 教職員の資質及びスキルを高めるため、校外の研修にも積極的に参加していく。(校外研修の参加人数(100人以上))	A		② 奈良県人権教育研究会・奈良市人権教育研究会・奈良県高等学校人権教育研究会・奈良県私立学校人権教育推進協議会・奈良県外国人教育研究会等主催の研修会に参加した。	② 積極的な人権研修会への参加を促し続ける。

3. 教科指導の充実強化	① 引き続き、ICT委員会で各教科別にアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改革を行う。(学校評価アンケートの該当項目での満足度80%以上)	A		① ICT教育の推進に関して常に情報交換を行い、各教科で推進した。ICTを利用した教具・教材は、教員ドライブで常に共有し、授業担当者の教材作成の負担を分散した。また、担当者による授業内容の差をなくした。	① ICT教育のさらなる推進を行うため、積極的な研修会を校内で実施する。
	② 授業、ホームルーム、個人面談、保護者会でのICT機器の活用を推進する。(学校評価アンケートの該当項目での満足度75%以上)	A	A	② 授業だけでなく、個別面談では、電子黒板とタブレットを使い、生徒が保護者と担任にプレゼンテーションを行った。保護者会ではICT機器を用いて説明を行った。	② 授業のみならず、校内の様々な場面での活用を心掛けるように、周知する。
	③ 中学1年生～高校2年生を対象に、AIドリルとして、Qubena(5教科)とMonoxerを利用する。また、Classroomによるデジタル課題を利用する。(情報端末の利用に関するアンケートにおける満足度75%以上)	B		③ 情報端末を導入した全クラス(中学1年～高校2年)において、授業ごとのポータルサイト(Classroom)を作成し、連絡手段として活用した。AIドリルについては普及段階であり、まだ十分とはいえない。	③ 全学年(中学1年～高校3年)まで、AIドリルを使用しての、生徒一人一人の状況に応じた教育実践を推進する。
4. 自主活動の充実強化	①-1 学園祭の企画・運営をする。 ①-2 スポーツ大会の企画・運営をする。 (学校評価アンケートの該当項目での満足度75%以上)	A	A	①-1 コロナ禍ではあったが、高校ではテーマに沿った充実した企画を展開した。中高別での開催となったため、中学生は独自に主体的に行事を進めることとなった。今後の開催のあり方については、新たに検討委員会を発足した。 ①-2 高校は、感染症対策のため、学年ごとに実施した。球技大会への生徒たちからの反応は、概ね好評であった。一方、中学は悪天候のため、予定していた競技を十分に実施できず代替プログラムを行ったが、概ね好評だった。	①-1・2 コロナ禍で獲得した知見を加え、コロナ前よりもさらに充実した行事を行っていく。
	② クラブ活動と学習の両立を図る。(育友会、体育文化講演会発行の「中学校・高等学校文化部・体育活動記録」に記載して教職員、保護者に開示する。)	B		② 部活動での活躍は、朝礼やアSEMBリなどで表彰し、全校生徒に周知した。また、「中学校・高等学校文化部・体育部活動記録」により保護者、教員にも開示した。高校の入部率が65.2%と低いため留意する。	② さらなるクラブ活動と学習の両立を図っていく。

5. 人間力の育成	① 各ホームルーム担任が、教科書、その他の教材を用い、クラスの状況に応じて人権教育・道徳教育を実践する。(授業展開資料、各クラス・グループでの発表資料)	A	A	① 学年に合わせて、障がい者問題、平和学習、部落問題、在日外国人問題、ジェンダー、LGBTQをテーマに、LHRの時間を中心に人権教育に取り組んだ。 また、各学年の道徳担当が授業計画を立案し、パワーポイントなどによる授業展開資料を作成。それに沿って各担任がクラスの実状に合わせた取り組みを行った。	① 今後も人権HRの充実を図っていく。
	② 各学年推進委員と人権教育推進委員、管理職からなる委員会を定期的実施する。(人権通信に記載して教職員、保護者に開示する。)	A	A	② 水曜日の4限に定期的に人権教育推進委員会の会議を開催し、各学年の人権教育の取組を報告・確認した。新任教員向けに年6回の研修会を開催した。	② 人権推進委員会を中心とした、人権教育の推進体制を今後も持続する。
6. キャリア教育、国際理解教育の充実強化	① キャリア教育、校外学習などを実践する。(特色教育実施内容及び実施回数)	A	A	① 卒業生など、各分野の第一線で活躍するプロフェッショナルを招聘して、講演会や出張講義を開催し、将来のキャリアイメージ構築の一助とした。	① 様々な研修会や講演会を今後も計画していく。
	② シアトル海外研修、男子ハワイサイエンスキャンプ、女子ハワイSTEAMプログラムの内容を充実させる。(コロナ禍での代替案も検討) 高校1年生のエンパワーメントプログラム及び高校2年生のボストン研修を実施する。(コロナ禍での代替案も検討) (各プログラムでの参加人数(30人以上)、ボストン研修実施報告書、エンパワーメントプログラムアンケート報告書)	B	A	② コロナ禍のため令和4年度の海外研修は実施できなかった。オンラインでの研修や、国内でのプログラムを検討し、代替案として生徒へ提示した。エンパワーメントプログラムについては、感染症対策を万全に行い実施した。ボストン研修は実施できなかったが、発展版エンパワーメントを代替案として生徒に提示し、実施した。	② コロナ禍での制限も解除され、コロナ前の海外研修を実施できるようにする。
	③ グローバルキャリア発表会、講演会を実施する。(発表内容、講演内容)	A	A	③ グローバルキャリア発表会を実施。講演会については1学期に1回、2学期に2回開催した。海外で活躍する女性からオンラインで講演をしていただいた。	③ 昨年までの実践を参考に、今年度も続けて実践していく。
7. 規範意識と自律性の育成	①-1 いじめアンケートを実施する。生徒規程の点検をする。(学校評価アンケートで「生徒指導：生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果を挙げている。」とする回答の割合。(目標値80%))	A	A	①-1 学校評価アンケートの目標値を概ね達成した。いじめアンケートでの回答は、情報交換会等において教員間での共有を図り、適切な連携のもと、いじめの早期発見・解決に向けた取り組みを行った。また、新生徒指導提要の趣旨に則り、生徒規程の見直しを進めた。	①-1 いじめアンケートのみならず、さらにアンテナを張って、方針に基づいたいじめ対策を実施する。

7. 規範意識と自律性の育成	①-2 全校朝礼、アセンブリを実施する。(学校評価アンケートで「生徒指導：生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果を挙げている。」とする回答の割合。(目標値80%))	A	①-2 全校朝礼・アセンブリは年間計画のもと、時機に応じ、全生徒に集団指導を行った。その内容については、社会性、ルール、自律性、マナー、モラルに関するものであり、全校生徒の規範意識の涵養を図ることができた。	①-2 集会を効果的効率的に行い、さらに生徒の規範意識を高める工夫をしていく。
	②-1 月に一度、各学年の不登校生徒などの情報交換会を実施する。(学校評価アンケートで「生徒指導：学校・担任は、個々の生徒の性格や諸事情に配慮した指導の実現に向けて努力している。」とする回答の割合。(目標値80%))	A	②-1 月に1度、生徒の登校状況や相談事案、保健室利用状況などについて、中高別に情報交換会を実施した。	②-1 今後も情報交換会を実践し、生徒の状況把握に努める。
	②-2 スクールカウンセラーによるカウンセリングを通して、家庭環境や生育歴などの背景を把握し、心理学的な観点からのサポートを強化する。(カウンセリング実施状況)	A	②-2 中学1年生を対象に、スクールカウンセラーによるメンタルヘルスケア講演会を実施した。 また、スクールカウンセラーのコラムや相談機関の紹介などを掲載した「教育相談室だより」を各学期に2回程度発行し、生徒や保護者に情報提供を行った。加えて、校内事故に対する生徒のメンタルケアとして、アンケートの実施や、週6～1日、2～1人の派遣支援心理士による見守り、当該クラス全生徒に、「こころのケアセンター」の心理士による面談を実施した。	②-2 スクールカウンセラーとの連携をより密にし、さらに丁寧な教育相談体制を構築する。
8. 進路指導の実強化	①-1 保護者、生徒対象に進路指導講演会を実施する。(進路状況報告書)	A	①-1 高校3年保護者会で進路指導部長、中学保護者会(希望者)で外部講師より入試情報や進学情報について講演し情報の共有を図った。また、生徒対象については、高校各学年で各2回進路に関するアセンブリや外部講師による講演会を実施した。	①-1 これからも生徒対象・保護者対象の講演会を行い、受験に対する情報共有を積極的に行う。
	①-2 現役生徒、過年度生の進路状況と在校時の成績とひも付けて分析する。(進路状況報告書 難関国公立50名以上)	A	①-2 今年度難関国公立(難関10大学+国公立医学部)の合格総数は88名となり、該当生徒の共通テスト得点や在籍時の模試成績との紐づけを行った。	①-2 さらに進学実績を向上させるとともに、生徒の成績などの分析や紐づけを続ける。

8. 進路指導の充実強化	①-3-1 教務部、進路指導部が中心となり各種入試分析会への参加と情報の共有化を行い、令和5年度大学入試に向けた校内分析会を行う。また、学年会・教科会とも連携を密にし、学校全体で難関大学合格など生徒の進路実現にむけた進路指導体制の構築を目指す。(令和5年度大学入試への対策)	A	A	①-3-1 新たに高校所属の教員を対象とした進路指導研修会を実施した。本校の進路指導に関する情報共有を行うとともに、ワールドカフェ形式で進路保障のために実現できるアイデアを出し合い共有した。各種研究会への案内は定期的にメールにて周知した。共通テスト実施後には、担任・コース部長・進路指導部による全生徒への出願先検討分析会を行い進路指導体制の構築を図った。	①-3-1 高校所属の教員対象の進路指導研修会は好評だったため、これからも工夫して続ける。進路指導部中心の進路指導体制はより強固にしていく。
	①-3-2 大学入試に向けたセミナー講座の設置及び効果的な実施を各教科で検討し、講座内容を決定する。(大学入試セミナー講座内容及び受講人数(目標値7割以上))	B		①-3-2 教科主任と連携を取りながら講座内容の検討、担当者の選定などを行った。	①-3-2 セミナーの内容講座を精査し、さらに生徒にとって効果的な講座とする。
9. 教員評価・教育成果の検証	①-1 保護者アンケートを実施し、アンケート結果のうち60%以下の項目について対応する等、その結果を積極的に活用する。(学校評価アンケートの該当項目での満足度(目標値:80%))	A	A	①-1 6月に2、3年生の保護者対象に学校評価アンケートを実施した。集計結果をまとめ、11月の保護者会で報告した。いずれの学年も、総合的満足度を尋ねた項目では、肯定回答が80%前後あり、概ね本校の教育を評価していたという結果となった。	①-1 今年度も保護者対象のアンケートを実施する。
	①-2 Classroomを用いた新たなアンケートを開発し、実施する。(授業アンケート結果における満足度75%以上)	B	A	①-2 利用できる教員から授業アンケートのデジタル化を行った。	①-2 授業アンケートのデジタル化を推進し、結果もデータで蓄積できるようにする。
	①-3 重点目標を踏まえた自己評価結果に基づき、教員評価を実施する。(教員評価結果)	A		①-3 自己評価を、Googleフォームを使って実施した。そのことにより、記入量が増え、自己の分析につながった。	①-3 今後もGoogleフォームを利用した自己評価を行う。
10. 各学校との連携強化	① 高大連携による大学教員(外部、内部)特別講座を高校2年生で実施する。(講座内容及び講座数(目標値:4講座))	A	A	① 大学出張講義を企画し大学教員による講義を高校で実施した。	① 今後も大学出張講義を実施する。
	② 「小中内部進学推薦制度」により、内部小学校からの進学者の増加を図る。(内部進学率の増加(60%以上))	B	A	② 男子在籍23名中15名の出願(65%)、女子在籍51名中25名の出願(49%)となり、女子の出願が目標に達しなかった。	② 帝塚山小学校対象の説明会などを実施し、さらに出願率が上がるように工夫する。
	③ 国公立大学との連携を密に行い、キャンパスツアー等の実施を計画し、生徒への参加を促す。(キャンパスツアー参加人数延100名以上)	A		③ 大学出張講義を企画し、大学教員による講義を高校で実施した。また神戸大学へのキャンパスツアーを実施した。	③ コロナ禍で実施できていなかった難関大学のキャンパスツアーを計画していく。

11. 組織運営の充実強化	①-1 毎週1回運営委員会を実施する。(議事録)	A	A	①-1 月曜日の3限に定期的に校務分掌長・コース部長・学年主任からなる運営委員会の会議を開催し、学校運営の強化を図った。	①-1 今年度は月曜日の4限に行う運営会議にて、学校の運営に関して、さらに強化していく。
	①-2 各教科、ICT教育、アクティブラーニング等、教育内容の研修を行う。(授業アンケート結果における満足度75%以上)	A		①-2 AIドリルの研修会(DX研修および国数社理英の教科会)を実施した。	①-2 教科会を通して、授業力の向上やAIドリルを使用した授業実践の例を増やしていく。
12. 安全管理・保健管理の実施	①-1 救命救急講習会を充実させる。救命救急医による研修及び消火訓練の実技研修を行う。 また、学校危機管理に関する研修や、新型コロナウイルス感染症を含めた感染症に対する研修を行う。 (救命救急講習会の実施内容及び研修回数)	A	A	①-1 常勤の教諭だけでなく、非常勤講師を含む全教員に救命救急時の研修を行い、緊急時に備えた。 新型コロナウイルス感染症についての研修も引き続き行った。	①-1 学校挙げての救命救急体制は、年始の会議や研修会で強く意識されている。研修会も重ねていきたい。
	①-2 緊急時の避難経路の見直しと避難経路を再考する。教室配置とクラス人数を勘案し、最適な避難経路を検討する。 雨天時等のグラウンドへの避難が困難な場合等の避難訓練を実施する。 (避難訓練実施報告書)	A		①-2 全教室に掲示の避難経路およびAED等救命救急時必要備品へのアクセス地図を、永久掲示できるように表記を変更し、より完全な緊急時掲示とした。また、教室の緊急避難経路図に、目隠しシートを作成し、入試時等でも掲示したまま隠せるようにして、緊急時にすぐに対応できるようにした。	①-2 大地震など、生徒の生命に関わる事態に対する備えを物理的にも意識的にも高めしていく。
	②-1 健康診断を通じた保健指導を行う。 ②-2 学年旅行における食物アレルギー自己防止に努める。 ②-3 保健教育講演会を実施する。 (学校評価アンケートの該当項目での満足度80%以上)	A		②-1 健康診断を通じた保健指導を行った。 ②-2 学年旅行前に食物アレルギーに関する調査等を徹底し、事故が起こらないように対応した。 ②-3 保健教育講演会を実施し、各学年の状況に応じた内容に関するものを実施した。	②-1・2・3 今後も、アレルギーなどの状況の周知、アナフィラキシーなどへの備え、講演会による生徒の啓蒙を続けていく。

13. 入試及び募集活動の強化	①-1 募集対策担当教員による関係機関との情報交換を密にする。(出願者数(中学校目標値:1,800名、高校目標値:800名))	A	A	①-1 募集対策担当教員による関係機関との情報交換を密にし、中学出願者は1,819名(昨年より179名増)となり、目標値を達成した。高校出願者は834名(昨年より45名減)となったが、目標値は達成した。	①-1 募集対策を強化し、コロナ禍で厳しくなっている出願者の増加を図っていく。
	②-1 クラブ活動など生徒の様子を多く紹介し、ホームページの充実を図り、アクセス数を維持する。(ホームページアクセス数(目標値:20万件))	A		②-1 クラブ活動や特色教育の内容を多く紹介出来た。	②-1 今後も説明会などで、学校の特色を説明していく。
	②-2 説明会・各ブース等で本校教育内容の理解を深めてもらう等、募集情報(本校の教育内容)の見せ方を工夫する。(説明会の参加人数(前年比5%増))	A		②-2 昨年度同様に、コロナ対策を取り人数制限を設け、京都、梅田、阿倍野、学校で3回と動画による説明会を実施した。	②-2 コロナ禍による制限は解除されたが、コロナ禍中と変わらない回数説明会を行っていく。
14. 学校評価の実質化	①-1 ICT教育を中心に各教科の授業研究を推進する。各教科の公開授業を行い、教員、生徒のアンケート結果を基に、より効果的な内容を検討する。(公開授業指導演、教員及び生徒アンケート結果における満足度75%以上)	B	A	①-1 コロナ禍で、公開授業・授業研究は行っていない教科が多いが、ICT教育の推進に関しては常に情報交換を行い、各教科推進した。	①-1 ICT関連の教育推進に終わらず、教科会を通じて公開授業などのさらなる授業改善を推進していく。
	①-2 各教科授業アンケートを継続実施するとともに、その結果を踏まえ自己評価を実施する。(授業アンケート結果又は結果報告書)	A		①-2 各教科で授業アンケートを実施した。できる人から、デジタルによるGoogleフォームを使ったアンケートを実施した。	①-2 今年度もGoogleフォームを使った授業アンケートを実施する。
	② 学校関係者評価委員会を開催し、評価結果を踏まえ対応可能な内容を実行する。(学校関係者評価において指摘された項目の改善の進捗状況)	A		② 学校関係者評価委員会を開催し、評価結果を踏まえ、一人ひとりの志望にあわせより丁寧に受験指導を行った。	② 今年度も学校関係者評価委員会を開催し、真摯にその結果を受け止めていく。

15. 経営安定化策の強化	① さくら連絡網を活用し、保護者、教員への伝達事項を行い、引き続き印刷費等を節減する。また、教員の作業の軽減及び物品費の節減にも努める。（印刷費の節減及び教員の作業の軽減、機器・設備費の節減（前年比10%減））	A	A	① 学校からの案内文書等を「さくら連絡網」を利用して配信することで、保護者へタイムリーな案内及び郵送費用等の削減に繋げた。	① 「さくら連絡網」による通知をさらに推進し、紙媒体による連絡を減らしていく。
	② 令和5年度中学校入試において、9クラス編成を実現させる。（クラス数（目標値9クラス））	B		② 募集定員300名のところ324名の入学生となった。10クラスとなった。	② 受験生を増加させながら、9クラスに収まるように、丁寧に合格ラインを設定する。

### 3. 学校関係者評価

(学校関係者評価実施日：令和5年5月12日。)

学校関係者評価委員会委員：帝塚山中学校・高等学校育友会会長、副会長(2名)、  
帝塚山中学校・高等学校体育文化後援会会長、副会長(2名)、帝塚山小学校校長)

意見	改善方策
<p>この3年間はコロナ禍で制限の多いなか、様々な工夫をして教育活動に取り組んでいただいたと思うが、体育祭や学園祭など仲間や友人と一緒に取り組み、友情を育んだり連帯感を持てる活動が制限されていたことは可哀そうだったと感じているので、これからは、従前の学校生活・課外活動に頑張って戻すようにしていただきたい。</p>	<p>中学校と高等学校を別々の開催にすることで、出番が増え生徒一人一人の主体的に活動する場面が増えるというコロナ禍での実施方法でよかった面も残しつつ、従前の学校生活・課外活動ができるよう活性化に向けてこれからも取り組んでまいります。</p>
<p>昨年秋の出来事について、学校側から保護者会で説明があったが、生徒の心のケアについての説明が中心であったため、その後、経緯や原因などについての事実とは異なる憶測や噂が広まっていくように感じるがあった。保護者会のあと、学校側からの説明の手紙などの配布があった方がよかったのではないかと。</p> <p>また、今回の件に限らず、不測の事態が起きた場合にどのように対処するのか、普段から様々なケースを想定した対応策をシミュレーションし、協議しておく必要があると思う。生徒への影響等を考えると伝え方が難しいこともあるのは重々承知しているが、学校側から原因と対応策などを具体的に明確に伝えた方が、保護者からすると安心感がある。</p>	<p>問題が起こった際には、どのように対処をするか学内で協議を重ねて慎重に対応をしてみましたが、このように率直なご意見をお聞かせいただけることは非常にありがたいと思っております。しっかりと受け止めて、今後に生かしていく所存です。</p>
<p>思春期ということもあり、子ども同士のトラブルや体調不良等で学校に行きづらくなったりする生徒へのフォローの仕方は、担任によって異なるものなのか。</p>	<p>原則、欠席が続いた生徒には連絡をすることになっていますが、「さくら連絡網」を確認するタイミングにずれが生じたり、教員間での引継ぎがうまくできず、連絡を取ることができなかったケースなどがあり、学校側としても課題であると認識しております。改めて職員会議等で課題を共有し、フォロー体制を徹底してまいります。</p>
<p>「情報」が受験科目に加えられたこともあり、ICTを活用した学習内容やツールの充実を希望する。先回りした対応をしていただきたい。</p>	<p>教科会等を通じてICTの活用を進める取組を図っているところではありますが、従来の紙媒体を利用したやり方で慣れている等の理由でデジタル化が進んでいない部分もあるので、いただいたご意見をもとに、これからもICTの活用を推進してまいります。</p>

意見	改善方策
<p>今後ますます国際社会での活躍が求められるため、受験に必要な英語力の強化だけでなく、国際交流活動の活発化や、教科横断型の英語学習など様々なアイデアがあると思うので、生きた英語を学べる取組をしてほしい。</p> <p>また、海外の大学への進学を希望する場合、日本とのシステムの違いで、出願書類の作成や多くの面で苦労があるので、適切なアドバイスや情報を提供いただける環境を学校として整えていくことで、海外を目指す生徒の増加にもつながるだろうと考える。</p>	<p>少しずつ海外の大学への出願・進学者実績が増えてきており、学校側も海外進学情報や実績を蓄積することで、より対応の幅が広がるようになると考えております。コロナ禍で制限されていた海外留学など、国際交流の部署を中心に今後も活発化してまいります。</p> <p>なお、進路指導部で、海外の大学を受験する際に必要となった書式などを蓄積し、相談があったときには、すぐに対応できる体制を整えました。</p>
<p>時代の変化に対応した教育実践・国際理解教育・ICT教育・人権教育を実施されていることが、在校生（家庭）の安心に繋がり、入学志願者増につながっていると判断できます。今後とも「帝塚山教育」を理解していただく保護者層を開拓するために、広報活動を進めていかれることを期待しています。</p>	<p>コロナ禍で制限されていた広報活動も、コロナ以前に戻しつつあります。中学校と高等学校の一斉開催から別々の個性を打ち出すという、密を避けるためにコロナ禍であったからこそ起こりえた変化も本校の個性として、さらに広報してまいります。</p>
<p>現在、帝塚山学園における大きな課題のひとつが、内部進学であるといえます。園児児童生徒そしてその家庭が安心して通学し、内部進学できる環境を構築していかなければなりません。幼稚園、小学校、両校園での学校関係者評価委員会においても、意見として出されました。</p> <p>中学校・高等学校の自己評価にて、内部出願率が記されていますが、内部進学率向上を目指すべきと考えます。そのためにも、内部小学生・家庭向けの説明会・体験入学をさらに充実させていただきたいと思います。</p>	<p>コロナ禍や様々な不測の事態から、保護者説明会などが思うようにできませんでした。今後生徒・児童数が減少してくるなかでも安定した総合学園として発展していけるように、今年度以降はコロナ前に戻し従来通り、活発に説明会などを行ってまいります。</p>